

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300460		
法人名	医療法人 英然会		
事業所名	グループホーム・み里		
所在地	中津市中央町1丁目8番36号		
自己評価作成日	平成30年8月3日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2015022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470300460-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2015022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470300460-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府庁番館1F
訪問調査日	平成30年12月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・田園に囲まれた静かな環境の中で、その人らしい暮らしが安心して出来、共に生き活きと生活出来る環境づくりを行っています。</li> <li>・地域での行事(保育園の生活発表会、お接待)の参加、四季折々の花を見に外出しています。</li> <li>・入居者の状態を隣接の診療所に報告しておき、特変があればすぐに対応できるよう連携を図っています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市内中心部の住宅地の中にあり周りには田畑も広がり季節の変化が感じ取れる静かな環境の中に位置しています。理念にも掲げられている「地域の方との交流」を大切にクリスマス会、花見、夏祭り、敬老会等の行事を含め日頃からの交流につとめています。母体である病院も同じ敷地内にあり事業所との連携体制もとれ、医療、精神面において利用者、家族の安心へと繋がっています。職員は、勉強会、研修、他事業所の交換研修に参加するなど、積極的に意識の向上に努めています。事業所が家庭の延長であることを念頭に職員一丸の支援が図られています。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム・みりの理念を作成している。年度始めに年間目標を作成し、職員全員が共有できるように会議室に貼りだしている。	理念は、各フロアや会議室の職員の目に触れる場所に掲示され、ミーティングや会議を通じ確認し共有につとめています。理念を具体化した年間目標を掲げ日々の支援の中実践へと繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回地域の自治会・老人会・地域の役員の方と一緒に花見会を行っている。8月に地域交流の夏祭りを行いたくさんの方に参加して頂いている。生活発表会やお接待に出かけ交流を行っている。	事業所のお花見、敬老会には、ボランティア、地域の方々の参加があり、8月の法人全体の夏祭りにも地域交流の輪が広がっています。地域の美化運動にも積極的に参加して交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として地域中学生の職場体験実習などを積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域と事業所が相互の関係を築いていけるような話し合いが行われている。また、地域の方と入居者家族が和やかな交流をもっている。	2ヶ月毎に地域の方・役所の方・家族・市内のグループホームからの参加により事業所の情報や課題について話し合われています。会議後は、地域の方・家族が利用者と食卓を囲みながら意見を出し合いサービス向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な時は聞くようにしている。	運営推進会議、グループホーム連絡会、市への訪問、電話連絡を通して課題の相談や意見を頂き情報の共有に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が意識を持ちながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者の状態に合わせ、ベッドの高さの調整、床に布団を敷いて寝られる方、センサーを置かせて頂いている方がいる。	理念の1つに「身体拘束をしない介護に努める」を掲げ、管理者・全職員が研修を重ね共有認識を図っています。利用者の状態に合わせた個々の対応がされ、言葉かけ等注意を払い自由に暮らせる支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議室に高齢者虐待についての紙を張り出し職員目に触れるようにしている。また、職員間で虐待防止について注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修で成年後見制度について行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者家族に不安な点、疑問点を尋ね十分な説明を行っている。また、グループホームについて利用料金、重度化や看とりなど医療体制についても詳しく説明をし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見が出ない為面会時に尋ねている。英然会苦情接遇委員会より年に1回アンケートを取り、入居者家族に意見を聞いている。また、反映できるように取り組み、内容を明記している。	面会時や年1回の家族会の中で雑談をしながら、話しやすい雰囲気の中希望を伺っています。年1回のアンケート調査で満足度や意見・要望を出して頂き家族に結果を報告しサービスに反映できるよう取り組まれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署の責任者が月1回の運営会議で意見を出し合っている。	毎月の運営会議やミーティングで意見を出し合い検討すると共に、関わりの中で、職員から直接意見・要望を聞き運営に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、(医)英然会で、随時、就業規則の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(医)英然会内の各研修に積極的な参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津市のグループホームで連絡会を立ち上げ3カ月に1度連絡会を行い、1人ずつ職員が順番に研修見学に行き交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族から詳しく話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者がこれまでの経緯についてゆっくり聞いている。また、家族の状況を把握する事により信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案、信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有し、入居者から昔の話を聞いたり、一緒にその歌を歌ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者の様子、日々の暮らしの出来事や気づきを報告し、情報の共有に努めている。家族に日々の言動について状況をお話しし、相談しながら本人にも納得して頂ける支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方の友人、知人が面会に来られた時は、部屋やホールで過ごせるように環境づくりをしている。また、一緒に写真撮影を心がけている。	入所時に、馴染みの人々や場所等伺い全職員が把握しています。馴染みの方の面会、ボランティア(大正琴)の訪問等継続して交流できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った入居者同士が自由に過ごせるように居場所や雰囲気づくりに努めている。コミュニケーションをとる事が難しい入居者に対しては職員が話しかけたり歌を歌うなどして、孤立しないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医)英然会の病棟に転院された方について、研修や外来に用事で行く時に様子を見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発した言葉や表情・態度などから思いを読み取り、把握に努めている。介護計画の立案時には再度本人・家族の希望・意向を確認している。	利用者の思いや意向を、言葉や表情・行動から汲み取るようにしています。利用者の思いを家族と共有し、個々の意向に寄り添った支援へと繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にこれまでの生活歴、個性や価値観、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、職員全員が本人の全体像を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテや介護計画、申し送りノートなどを各自がチェックし、現状を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映できるように心がけている。ミーティングやカンファレンスにて職員全員で意見交換を行い、共有を図っている。	日々の関わりの中で、利用者の思い・家族の意向・要望を大切に利用者本位の介護計画を作成しています。アセスメントを含め職員全員で意見を出し合い、モニタリング、カンファレンスを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を基に3カ月の介護計画の評価、6カ月毎の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院など必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、地域の方にグループホームを知って頂き、協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望に応じ歯科など必要な医療機関に受診している。受診出来ない時は往診を依頼している。また、皮膚科の医師が毎週水曜日に往診してくれている。	隣接する母体医療機関で対応できる科目(内科)については、殆どが母体をかかりつけ医としており、専門医(歯科、皮膚科等)の往診もあります。日頃から母体看護師との相談や連携を図り適切な医療支援が受けられています。	年2回の健康診断と月1回の受診を実施されていますが、家族にその結果報告と、1ヶ月のバイタル記録とともに、直近の様子等を伝えることで家族との信頼、安心を更に深められることを期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしており、(医)英然会内の看護師の支援体制を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の生活状況を職員が共有できるように面会を行っている。早期の退院が出来るように家族の意向を含め、入院先との相談、関係者との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を作成し、入居時・状態が悪くなった時に意向・同意を得ています。	重度化や終末期のあり方について、契約時に家族に説明し同意を頂いています。終末期になれば早い段階から家族に説明し、納得の行く支援を行っており、医療が必要になれば隣接する医療機関との連携が図られています。	事業所の対応力の変化を考慮し、現状に即した対応指針と重度化及び終末期に伴う意思確認書を再度作成し、家族と職員で共有、連携を図ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	酸素使用方法、応急処置は対応できるように技術習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で非常防災災害訓練を行っている。また、運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。	隣接する法人施設と連携して、消防署の協力のもと、夜間を含めた避難訓練を行っています。避難経路の確認、専門業者による施設点検指導を受けています。運営推進会議で地域住民との協力体制作りにも努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	医)英然会の接遇委員会で年1回接遇セミナーを行っている。言葉かけ、対応について学習をすると共に月1回のミーティング時、日々の関わり方について確認し統一している。	接遇や人権擁護に関する研修会を定期的実施し、プライバシーを損ねない声かけや対応に努めています。さりげないトイレへの誘導や、同姓介助による入浴支援等、日々職員が気遣い、声をかけ合いながら支援に繋がっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で各自の希望を聞き、自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせるよう心掛けている。行事、レクリエーションにも無理な参加は勧めていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の送迎により美容室に行っている方はいる。その他の方は、2か月に1回理容師に来てもらって散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日に好きなメニューを聞き、厨房にお願いしている。自分の好物が出て入居者は喜んでいる。	食事は厨房で作られ、ホームで配膳しており、職員も同じ食事を味わいながら利用者にとって家庭的な雰囲気で作れるよう支援しています。誕生日、行事食等は好きな物を提供し、食べる楽しみを大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時・15時、入浴後の水分補給以外にも随時お茶や好きな飲み物を勧めている。嚥下状態の悪い人にはペースト・刻みにし、むせないようにトロミを使用している。高カロリージュースも使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合った口腔ケアを行っている。うがいが出来ない方にはガーゼを使用し、清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンや排泄の有無を把握し、タイミングを図りながら声かけ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	利用者の様子観察や排泄チェック表により個々の排泄リズムを把握して、誘導や声かけを通じて排泄の自立に向けて適切な援助方法を工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、レクではボール遊びや手遊び歌なども取り入れ、適度な運動、十分な水分摂取などで便秘予防に努めている。排便困難な方には緩下剤でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体機能の状況に合わせ介助や見守りを行い、時間にゆとりを持たせ入浴を楽しめるよう支援している。拒否のある方にはタイミングを図りながら声かけし、無理に入浴を勧めないようにしている。	入浴は週3回を基本としていますが、シャワー浴や足浴を含め、臨機応変に対応しています。入浴拒否の利用者にも言葉かけやゆず風呂等工夫をしながら支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、夜間2時間毎に巡視を行っている。状態によっては頻度に訪室も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬と作用を一覧にして職員が確認できるようにしている。各自の薬を管理し毎食前後に服薬確認を行っている。病状の変化など必要に応じ受診を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえるようにその人その人に合った仕事をお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出たい希望があった時は、敷地内を散歩したり、外来と一緒に出かけたりしている。外出が好きな方には日曜日に一緒に買い物に行っている。	利用者や家族の希望に添った、外出になるよう健康状態や天候等を考慮しながら支援しています。買い物に行く方、イベントでのお花見等のドライブの外出支援を行っています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自分で管理している方がおり、神社やお接待に行った時などはお賽銭をあげている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で家族に電話をかける方がおり、声を聞いて安心している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、各ユニットのフロアに季節に合った植物を飾り、創作作品がユニットフロアの壁に飾るなど季節感が出るように配慮を行っている。	広いホールでは、車椅子の利用者が多く、動線や利便性を考慮しテーブル・ソファ等が配置され、随所に季節感のある飾り物が和やかで落ち着いた雰囲気となっています。各居室の入り口やトイレ等は迷ったりしないよう明示され、清掃や衛生面にも細かい配慮をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットのフロアにソファを置き入居者同士が気軽に会話ができるようにしている。フロア内で横になれるように各ユニットにベッドを設置し、ソファで休まれたり、ベッドで休まれたり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら使い慣れたもの、好みの物を持ち込まれ入居者の居心地の良さに配慮している。	フローリング仕様の居室は明るく落ち着いた雰囲気です。エアコン、ベッド、洗面台が整備されています。利用者の好みで床にマットを敷いて寝られる方等思い思いの生活を支援しています。壁には家族写真、手紙、趣味のポスターを貼り生活を楽しんでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく便所と書いた紙を貼り、場所が分からない入居者の方にも分かるようにしている。		